

「海ごみ問題を考える ネットワーク作り」の提案

山形県立山形工業高等学校
大津 慶士 / 相澤 一汰 / 阿部 神楽

CONTENT 発表内容

現在、マイクロプラスチックなどの海ゴミが世界的な問題となっており、山形県の庄内浜にとっても深刻な問題になってきています。2014年のデータではありますが、庄内浜で回収されたゴミの量は、4327t、10tトラック約580台という報告があります。

私達は4種類のロボットの開発に取り組んでいます。1つ目は砂浜走行ロボット、2つ目は岩場走行ロボット、3つ目は水面走行ロボット。そして4つ目はダイバーのお手伝いをする水中ドローンです。

海ゴミには3種類あり、その中の漂着ゴミの7割がなんと内陸から廃棄されていると言われていています。海を守るには山形県の母なる川、最上川を守らなければならないのです。それには私達だけの力では何ともなりません。

ものづくりを得意とする県内8つの工業高校がスクラムを組み、河川から海ゴミ問題を考え、行動を実践するという提案をします。最上川源流から日本海までの要所要所に位置する工業高校が中心となり、河川から海を守っていきませんか。さらに工業学科を持つ私学、加茂水産高校、鶴岡高専も加われば、最強スクラムが完成します。

高校生の知恵と行動力で未来を変えられるはず。次のような活動を行いましょう。

庄内浜も こんな状態です



- 1・学校で海ゴミのことをさらに理解する。
- 2・地元の河川に出向き、現状を把握する
- 3・必要なアイテムは自分たちで作る
- 4・近隣小学校で海ゴミ問題の出前授業を行う
- 5・大人向けの啓蒙活動を行う

この活動はSDGsの14番「海の豊かさを守ろう」に繋がっています。

高校生の皆さん、この問題は私達世代が将来直面する深刻な問題です。1人1人ができることをやれば絶対に改善すると信じています。

COMMENT 審査員コメント



株式会社ジョイン専務取締役 武田 靖子

まずは自分たちで作ったこのロボットをどう生かすかというところから、このような世界課題と言える海ゴミ、マイクロプラスチックの問題、そしてネットワーク作りということで、もうやれることはやろうという意気込みがものすごく感じられました。単に学びを深めるだけではなく、巻き込み力を使ってこういう体制づくりを行うのは非常に貴重だと思います。



山形県みらい企画創造部長 小中 章雄

最上川は単一の県を流れる川としては最も長く、山形県を象徴する川でありますので、それと庄内浜を関連付けているところが素晴らしいなと思いました。庄内浜を綺麗にして、将来的には飛島でもやっていくということで、できることからやっていくという姿勢がいいなと思いました。